



【セブ島留学】 留学体験記！



KIRIHARA
Global Academy

学習に喜びと感動を
Take joy in what you learn.



2018年7月1日より「KIRIHARA Global Academy (桐原グローバルアカデミー)」という名前に生まれかわったセブ島留学。今回は、夏休みを使って社員が自腹(!)で留学してきましたので、その体験記をお送りします。

The Log of Cebu

●SUN.July.29

昨日の台風で全便欠航になった影響で、セブパシフィックのチェックインカウンターは大混雑だった。12時半くらいに離陸し、夕方には、セブのマクタン空港に到着。外に出ての第一声、蒸し暑い。外は語学学校のお迎えがズラッと並んでおり圧巻である。空港からホテルまで40分ほど、街の風景を眺めて言葉が出なかったり、派手派手なタクシー、しかもそこに乗っている人の多さに驚いたり、飽きることなく移動した。さあいよいよ明日からスタート、がんばるぞ。

●MON.July.30

初日はオリエンテーションと placement test があった。リスニング、ライティング、スピーキングとひと通りあり、レベルを測定される。全7レベルあって、僕は上から3番目の intermediate。その後、授業が始まった。授業は100%マンツーマンの個別レッスン。今日はすべての授業が初回なので、お互いの自己紹介、セブに来た理由、仕事のことや家族のことをつたない英語で説明した。どの先生も、リアクションがいいので、変な緊張や恐れはない。しかし、自分の語彙力の乏しさには閉口する。とてももどかしい。先生たちの gentleness に感謝する。さて、今回の留学はホテル留学というユニークな形式である。1つのホテルの中で授業、食事、宿泊が可能、つまり外に出る必要がないということだ。ランチの後、部屋で昼寝 (take a nap) したり、雨が降れば昼も夜もホテル内のレストランで食事をすることができる。これは予想以上に大きなメリットと感じる。

初日の授業が終わると、日本人スタッフの案内で少し街に繰り出してみた。セブといえばリゾートなんだろう、ふつうは。しかし、ホテルがあるセブシティはリゾートのカケラもない。喧騒に包まれた、ザ東南アジアの都市である。ビルの建築ラッシュ、そこら中で鳴り響くクラクション、そして強烈な排気ガス。これだよ、このカオスだよ、負けないように、巻き込まれないように。明日も頑張ろう。



●TUE.July.31

2日目。今日からフルで8コマの授業。朝8時から夕方5時まで50分授業が8本続く。過酷である。しかし、あっという間に終わるのだ。そう感じさせるほど、授業が楽しい。5時に終わり、ホテルから徒歩5分ほどのところにあるセブ島最大のショッピングモール、アヤラモールに行った。広いと聞いていたが、確かに広い、巨大なモールだ。とりあえずお土産にドライマンゴーを大量に購入し、冷蔵庫ストック用にサンミゲル (the most famous beer in the Philippines) も仕入れた。このモールには、無印やダイソーがある。和民やペッパーランチもある。落ち着くような、落ち着かないような。

●WED.August.1

英語漬けでストイックに過ごすぞ！と意気込んでいたが、1日8時間ぶっ通しでやると、どうしても自分にご褒美をあげたくなる。同期入学の仲間 (Batchmate) と連日飲み歩いている。名物のレチョンをはじめ、地元の旨いものに舌鼓を打ちながら親交を深める。ちょっとした異業種交流みたいなもんだ。高校の校長さん、IT企業に勤務の方、コンサルタント、大学生、中高生と実にさまざまな年代、職種の方が、英語を学びたいという共通の目的を果たすためにセブに来ている。それが嬉しくて、つつるんでしまう。それもまた醍醐味かな。

●THU.August.2

Every teacher is so friendly and helpful, and I enjoy studying English more than I thought. Thanks to their help, my English skills are getting better day by day.

早くも木曜日。明日の午前で授業が終わり午後には卒業式だ。卒業式でスピーチがあるというから、仕上げねば。しかし！今夜もまた街へ繰り出した。商業ビルの屋上19階にあるタイレストラン。batchmate と記念撮影。彼らのおかげで1週間ががんばれた。感謝だ。



●FRI.August.3

卒業式。スピーチ原稿を作成し、20回くらい音読して暗記した。いくつか抜けたけど、ほぼこのまま話すことができた。調子に乗ってビートルズの歌まで歌ってしまった。たった1週間でも卒業式があって賞状をもらうってのは嬉しいものだ。記念のTシャツも So cute.

All of my classes have just finished. I can't believe that a week has passed. Time flies so fast. First of all, I'm really happy to get this kind of opportunity to study English. Thank you for our teachers, you always make efforts not only to teach English but to encourage us. Because of that, I got courage to communicate to foreign people. And I also thank my batchmate. Thanks to you, I enjoyed spending time here in Cebu. We enjoyed having meals and drinking beer together. It was a great experience for me. Finally, I'm going to leave Cebu early in the next morning. I'm so sad to leave. But I promise, I'll be back soon. God bless you, thank you.

●SAT.August.4

成田に向かう飛行機の中で、最後の日記を綴っている。しかし、眠い。フライトは朝5時半だった。LCCを利用したから仕方ない。ホテルを2時半に出発し、マクタン空港へ。7月に完成したばかりの空港は真新しく、フィリピンの、セブの成長ぶりを感じさせる。それにしても実に楽しいあっという間の1週間だった。帰国したら、英語の勉強を続けよう。オンライン英会話をしている人も多いという。そこまではできないから、仕事で、プライベートで話す機会を意識的に設けよう、それから春から始めたラジオ英会話を真面目に継続しよう、と同時に語彙力を高めよう！備忘録として、この決意を残しておく。近いうちにもまた訪れたい。



英文校閲者のひとりごと 12

桐原書店の英文校閲担当者（アメリカ出身、在日歴長め）が日本で感じたちょっとしたことをつぶやきます。



Obon Days in the City

For foreigners living in Japan, Obon can be a strange time. While many urban Japanese return to their hometown to take part in the Obon “rites”, foreigners who choose to remain in Japan must find other things to do in a strangely deserted city.

In the highly structured life of Japan, Obon offers me a bit of freedom to pursue my hobbies. In recent years I have discovered the pleasure of writing in a high-quality notebook in cafes. It's not so much what I write that matters; simply the sensation of forming cursive letters with a fountain pen on fine paper is pleasurable and surprisingly relaxing. Over an iced coffee I can spend a few hours (if I can find a seat) transferring random thoughts onto paper.

I have noticed that in the past several years, the art of hanging out in cafes has caught on in Japan among not only young people plugged into their laptops but also older folks seeking an air-conditioned environment outside their home.

Reflecting upon August's somber anniversaries of the atomic bombings and the end of the Pacific War, one can focus on creating a better future not just for oneself but for others in world. But just as one gets used to the heat and humidity, summer is over. As Shakespeare wrote, “Summer's lease hath all too short a date”.



筆者が描いた都会の夏

日本語訳

都会のお盆休み

日本に住む外国人にとって、お盆休みはちょっと変わった期間かもしれません。都会に住む日本人の多くが故郷に帰ってお盆という伝統行事に参加する一方で、日本にとどまることにした外国人は、いつになく閑散とした都会で何かほかにすることを見つけなければなりません。

日本でのとても型にはまった生活の中で、お盆は私に自分の趣味にひたる自由をちょっとだけ与えてくれます。ここ数年、私はカフェで上等なノートに書きものをすることの楽しさを知ることになりました。私が何を書くかはそれほど重要ではありません。単に、上質な紙に万年筆で手書きの文字をつぶる感覚が心地よく、それが驚くほど心を落ち着かせてくれるのです。アイスコーヒーを飲みながら、（空いた席が見つければ）頭に浮かんできたとりとめもない考えを紙に書き移すことで数時間を過ごすことができます。

ここ何年かの間に、日本ではカフェにたむろする習慣がパソコンを使う若者だけでなく、自宅の外で空調の効いている場所を探し求めている年輩の人たちの間でも広まってきていることに私は気づきました。原爆の投下や太平洋戦争の終結など、8月に巡ってくる厳粛な記念日を深く受け止め、私たちは自分のためだけでなく、世界中の人たちのためにも、よりよい未来を作り出すことをじっくりと考えてもよさそうです。しかし、この蒸し暑さに慣れたころには、夏は終わりを告げるのです。シェイクスピアが書いたように、「夏はあまりにもあっけなく去っていく」のです。

